

このコーナーでは長年、市内の小・中学校で教職にあつた蛭田光城さんが市立図書館発行の「成田のむかし」に執筆した成田の昔の暮らしの様子を掲載していきます。

たきぎ取り

文

蛭田光城 ひるたみつぎ

絵 野上和彦

※【薪(たきぎ・まき)】

燃料として使用する木(枝を含む)や木材、木材の廃材などのこと。木は水分を多く含んでいるため、乾燥させ使用します。

おじいさん、おばあさんと、山へたきぎを取りに行きました。

山へ着くと、おじいさんは大きな鎌で、松の木の下の枯草を刈り始めました。

おばあさんは、わらの先の方を縄にして、二本結び付けて、りゅつ綱を作っています。

ほくは山の下の清水を汲みに行きました。帰ってみると、山の窪地に火がたいてあります。

おばあさんが、たき火の中へ餅と芋をいれてくれました。

おじいさんは、長いさおの先へ小さな鎌を結び付け、枯れた松の枝を落とします。枝

の根本へ「ヤツ」とばかりに鎌の切り込みを付け、枝の先の方をグイッと引つ張ります。

枝はバキーンと音をひびかせて落ちてきます。

枯れ枝の次は、青い枝も落としました。

おばあさんは刈つてある枯草や落ちている松葉を、熊手で集めています。見ているうちに、うず高い小山が出来ました。

「一服やつか」おじいさんの声がしました。

三人はたき火を囲んで座りました。

おばあさんが餅と芋を出してくれました。芋を二つに折ると、黄色の小口から、白い

湯気が出ておいしそうです。餅は醤油をつけただけだけど、山で食う味は格別でした。

おじいさんとおばあさんは、りゅつ綱の上へ青い松の枝を乗せました。少しうず高くな

ったなどと思うと、その上へ青い松葉を乗せ、りゅつ綱で二か所しばりました。そして

両方の端を、熊手でチョン、チョンとつつきます。

それできいな束になりました。しばらくすると松葉の束が、たくさん出来上がりま

した。

こうやって、昔は一年分のたきぎを採ったそうです。こうして木の枝を払うことで、

木も成長するんだそうです。

編集後記

子育てを象徴するような、笑顔あふれる写真を求めて小学校の運動会へ。500枚ほどシャッターを押し、楽しい・うれしい・悔しい、いろいろな表情が撮れました。中でも1年生の親子レースは、笑顔の宝箱。元気いっぱいの子もたちと、ちょっと照れくさそうな親たち。表紙はその中から息がピッタリと合った1枚を選びました。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。

平成19年10月15日号 No.1109 成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>

